

4) 食餌の全経過に及ぼす影響について

国立療養所下志津病院

倉島克己

幼児期、学童期、思春期等と末期症状時のそれぞれに応じた、食餌摂取量と食事内容の再検討をすると共に、各年齢層の者を2名づつ、抽出し、併せて、体重の変化を考察しているところである。取敢ず、体重の推移については下記のとおりである。

但し末期症状時においては、現在まだ未定である。

体重の変化について

性別	年齢	体 重 測 定 日			
		50.7月	50.10	51.7	51.10
男	7才	20.0	19.8	21.2	23.6
男	9才	18.5	20.0	20.8	21.6
女	12才	20.0	20.2	23.0	23.4
男	12才	42.0	41.5	40.8	41.0
女	18才	33.0	31.0	31.0	31.0
男	18才	31.0	35.5	30.0	29.0
男	19才	50.0	46.8	41.0	40.0
男	14才	46.2	43.6	44.2	44.8

以上の様にみて、喫食率からみて、夏休み前(帰省前)の体重と帰院してからの体重をみると、毎年増加が見られる。これは家では、自分達の好きなものばかり食べているからと思われる。病院においては嫌いなものは全く口にせず、おだてると一口くらい食べる。もう一つには、集団的に、親分的即ち、ボスの存在の者が食堂で食べていると、これは、食べたくない、まづいからと言っただけで小さい子供は、皆一様に残してしまうという心理的なものも大いに左右されている傾向もしばしばみられることがある。このようなところから100%喫食することはなかなか難しい。

意外にも、個室で過している子供の方が喫食率がよいという場合も見受けられる。(特に女子の場合が多い)

子供の好きな料理のみ作って出すという事も、他の患者が大勢いるところでは、なかなかそのかねあいもむづかしく、蛋白質の摂取量においては60~70%がようやくというところ。ビタミン補給の野菜、果物においては、特にマヨネーズを使ったサラダ類、生野菜類は100%の喫食を示し、煮込んだもの特に砂糖を多く使用したものは、ほとんど残すという結果がでている。

少しでも食欲の増進をはかるために、汁ものを少し多く出すと、病棟より夜尿が多く困るといわれ

仲々思うようにいかない現状である。カロリー（エネルギー）、蛋白質、脂肪、ビタミンともどの位摂られているかということも、これから出していかねばならないところである。まだ確たる立証はつかないままである。これからも長い時間をかけて、より有効なものにするようにしていきたいと思う。

5) P M D 患者の栄養摂取量について

国立徳島療養所

新居 さつき 山上 文子

坂口 久美子 新山 喜昭

一昨年（50年度）20名のDMP患者について四季にわたり栄養摂取状態を調査し、2,000 kcalの給与のうち平均1,000 kcal程度の摂取しかしておらず非常に残食の多いことが分った。そこで今年は患者の嗜好を取り入れた献立や調理方法により摂取量がどのように変わるかを検討した。

まず国立徳島療養所に入院中の筋ジストロフィー患者80名について昭和51年の4月に嗜好調査を行った。すなわち各患者について好きな献立および嫌いな献立をそれぞれ5品目ずつ記入させた。その結果（表1）に示すようにうどん、中華そば等の麵類とカレーライス是非常に好まれる献立であり、一方酢豚、ちらしずし、茶わんむし等は嫌われていることが明らかとなった。

表1

嗜好調査

時期：51.4
対象者：80名

好まれた献立	嫌われた献立
うどん 45	酢豚 32
カレーライス 44	ちらし寿司 26
中華そば 41	茶わんむし 19
コロッケ 24	シメジ 17
すきやき 21	刺身 17
刺身 21	ハ旬菜 16
ハンバーグステーキ 15	すきやき 14
トンカツ 9	煮魚 10
おでん 9	えびフライ 5
オムレツ 8	コロッケ 5

表2

基準食献立表

	(昭和50年度)	(昭和51年度)
一 日 目	みそ汁・漬物 だし巻き卵・冷奴 ハンバーグステーキ・おたし	みそ汁・漬漬 肉うどん・果物 カレーライス・サラダ
二 日 目	みそ汁・漬物 焼魚・粉炙子・ソーテー 香味焼・卵とじ	パン食 やきとり・たらこ和え フライ・花かつお和え
三 日 目	茶舞子・佃煮 カレーライス・サラダ 煮魚・焼茄子	みそ汁・佃煮 遊焼・巻合せサラダ だし巻き卵・冷奴

表3

基準食の栄養価

	50年度	51年度
熱量 Cal	1948	1944
蛋白質 g	71.0	78.0
動物性蛋白質 g	41.0	49.4
脂肪 g	58.0	57.6
カルシウム mg	566	637
鉄 mg	12.0	25.5
ビタミン A IU	2018	1570
ビタミン B ₁ mg	0.78	0.77
ビタミン B ₂ mg	1.19	1.25
ビタミン C mg	99	76

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

幼児期、学童期、思春期等と末期症状時のそれぞれに応じた、食餌摂取量と食事内容の再検討をすると共に、各年令層の者を2名ずつ、抽出し、併せて、体重の変化を考察しているところである。取敢ず、体重の推移については下記のとおりである。

但し末期症状時においては、現在まだ未定である。